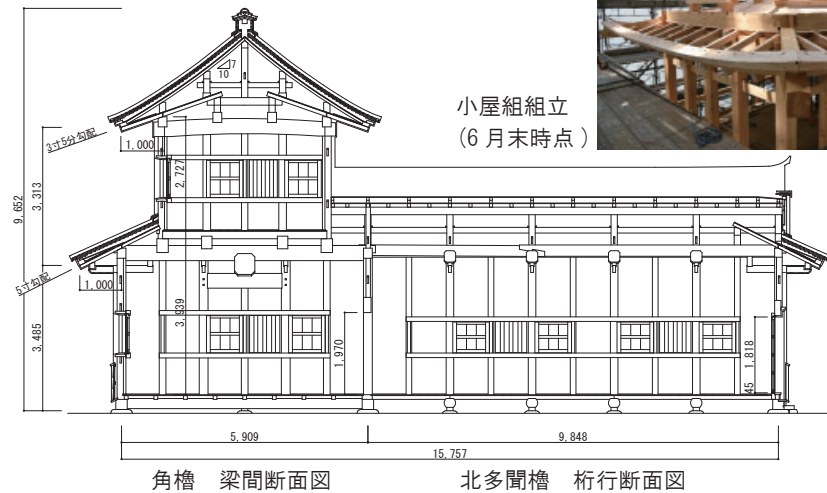
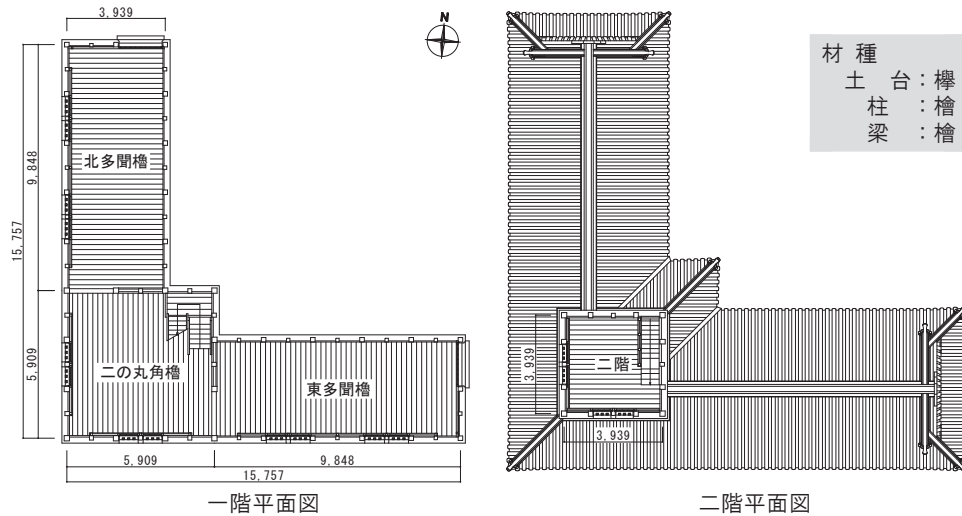


◆復元（整備）図



◆工事概要（二の丸角櫓・多聞櫓とも）

- | | |
|------|--|
| 基礎工事 | 遺構面を保護し、鉄筋コンクリート基礎を追加。 |
| 外部仕上 | 全面大壁、小舞下地、土塗、白漆喰仕上腰板下見板張。軒揚塗。 |
| 内部仕上 | 全面真壁白漆喰仕上。 |
| 屋根工事 | 入母屋造、本瓦葺。大棟は箱棟（張瓦に漆喰塗）。端部は角櫓が鬼瓦・鯨瓦付、多聞櫓は鬼瓦・鳥衾瓦付。 |

制作：（公財）文化財建造物保存技術協会

水戸市指定史跡水戸城跡(平成 28 年 1 月 29 日指定)

水戸城二の丸角櫓復元 及び土塀整備工事の概要

◆工事の目的

水戸市指定史跡水戸城跡及び茨城県指定史跡水戸城跡（壘及び濠）内において、史跡地の文化財保護（保存と活用）のため、明治以降に失われた二の丸角櫓及び土塀を復元・整備するものです。建物は、城内の景観を形成する重要な要素であるため、より城全体の価値を高めるよう、遺構や史資料を基に意匠や構造を往時の姿に復元することを主たる目的としています。

◆水戸市指定史跡水戸城跡の概要

水戸城は 12 世紀末～ 13 世紀初頭に馬場大掾氏が城館を備えて以来、江戸氏、佐竹氏、徳川氏と城主が変わる毎に拡張が繰り返された中～近世城館跡です。陸路・水運の要衝に立地し、また天然の要害であったことから、いずれも地域支配の中核的城館として利用され、特に近世には水戸藩の居城となるなど、相応の歴史的意義を有しています。

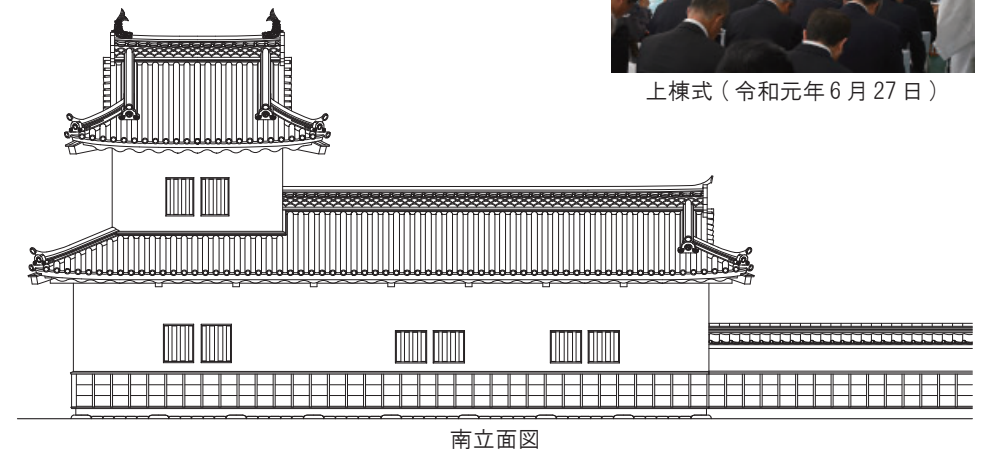
◆二の丸角櫓及び土塀の形状と規模

二の丸角櫓 折曲り一重櫓、隅部に一部二階、
（多聞櫓） 木造、入母屋造、本瓦葺

土 塀 R C 造、両下造、棧瓦葺、南面土塀、
西面土塀、大手門北側土塀



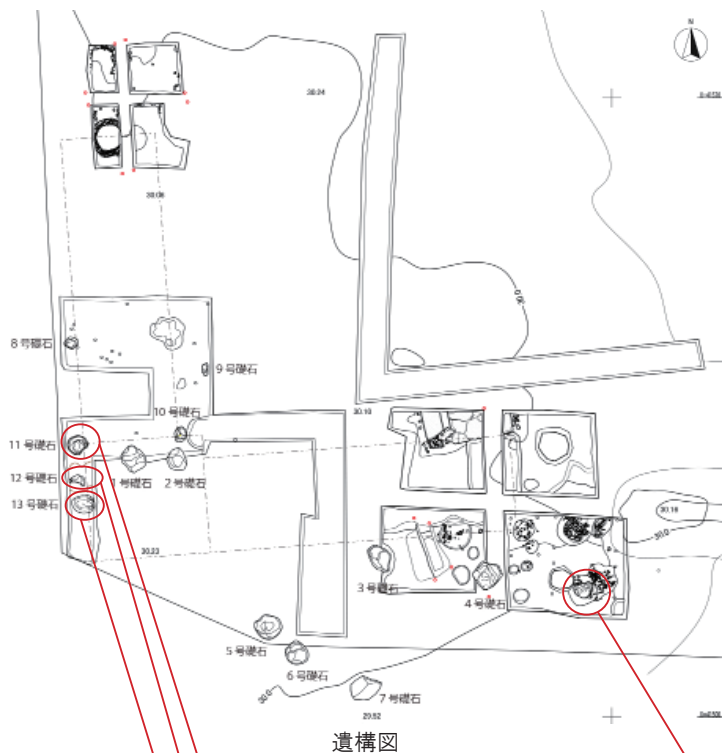
上棟式（令和元年 6 月 27 日）



◆復元の根拠

復元工事は、文化庁の定める基準を参考にしつつ実施しています。そのため、復元する建造物の遺跡の位置・規模・構造・形式についての十分な根拠が求められ、復元後の歴史的建造物が高い蓋然性をもつ必要があります。

①遺構に関する資料



軒丸瓦 (瓦当) 葵紋



丸瓦



軒平瓦 (本瓦)

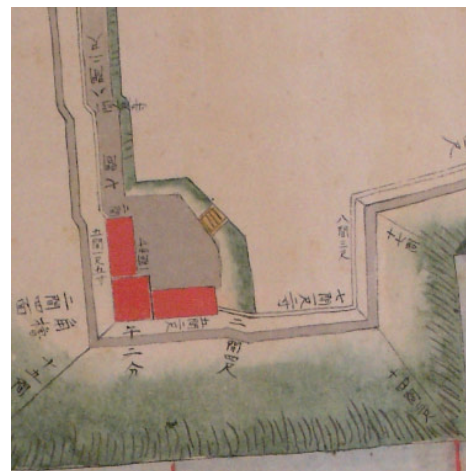


鬼瓦 (正面)

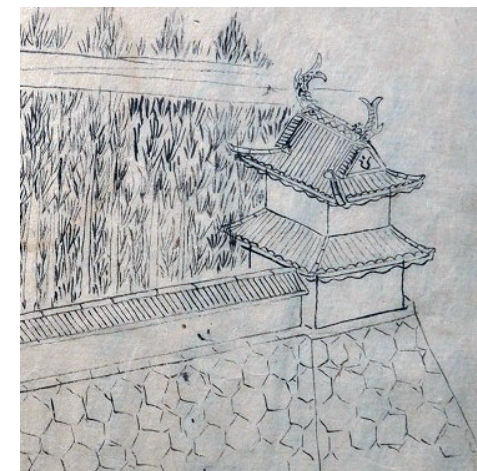


原位置を留めている礎石

②絵図及び絵画資料



絵図『水戸城実測図』(二の丸角櫓部分拡大)
明治期 (茨城県立図書館蔵)



絵画『水戸藩追鳥狩画冊』(二の丸角櫓部分拡大)
天保11年(1840) (個人蔵(水戸市立博物館寄託))

③古写真



本丸南西角櫓と柵町坂下門 (角櫓部分拡大)
明治期と推定 ((公財)文化財建造物保存技術協会蔵)



重要文化財大洲城高欄櫓 (西より見る)
(左の多間櫓は復元)

◆設定した復元年代

今回復元根拠とした礎石群は、安永5年(1776)の火災による焼失後、再建された櫓を構成していたものと判断されます。しかし、古写真が発見されていないことから、江戸中期以降の姿が、明治以降まで残っていたかは不明ですが、復元年代は大手門に合わせ、天保期に存在していた建造物を復元するものと定め、安永焼失後に再建された櫓を目指します。